

上部消化管内視鏡検査 問診票

フリガナ		男・女	生年月日
氏名			大・昭和・平・令 年 月 日
1. 上部消化管内視鏡を受けられたことがありますか？			はい・いいえ
※ 「はい」とお答えの方にお伺いします。			
・ いつごろですか？（ 年前 ） 検査結果（ ）			
・ 検査中に具合が悪くなりましたか？			はい・いいえ
2. ピロリ菌の検査を受けたことがありますか？			はい・いいえ
※ 「はい」とお答えの方にお伺いします。			
・ ピロリ菌検査の結果をおしえてください。			陽性・陰性
・ 除菌治療はしましたか？			はい・いいえ
3. 鼻や胃の手術をされたことがありますか？			はい・いいえ
4. 今までに下記の病気にかかったことはありますか？			はい・いいえ
（あてはまるものに○） 心疾患・不整脈・糖尿病・前立腺肥大症・緑内障・気管支喘息・てんかん			
5. 下記の薬を使っていますか？			はい・いいえ
（あてはまるものに○） 抗凝固薬・精神安定薬・医療用麻薬 薬品名（ ）			
6. いままで歯科の局所麻酔で気分が悪くなったことはありますか？			はい・いいえ
7. ミントアレルギーはありますか？			はい・いいえ
8. 女性の方へお伺いします。			
妊娠中（はい・いいえ） 妊娠の可能性（はい・いいえ） 授乳中（はい・いいえ）			
9. 本日、車・バイク・自転車を運転されるご予定はありますか？			はい・いいえ

上部内視鏡検査、および鎮静剤使用の同意書

私は上部消化管内視鏡検査の説明書を読み、検査の目的・方法・危険性について理解致しました。
内視鏡検査を受けることに同意いたします。

年 月 日

受診者署名 _____

内視鏡の挿入方法 (経口 ・ 経鼻)
 鎮静剤の使用 (希望する ・ 希望しない)
 生検 (希望する ・ 希望しない)

上部消化管内視鏡検査 説明書

【検査の目的】

上部消化管内視鏡検査は、食道・胃・十二指腸の病気を見つけるために行う検査です。

【検査の方法・ながれ】

検査前日

- ・ 夕食は夜 9 時まで済ませてください。以降は検査後まで、食事は召し上がられません。
- ・ 水分は、水やお茶のみ飲んでいただいて構いません。
- ・ 常用している薬がある方は、事前にご相談ください。
- ・ 妊娠中や授乳中の方も、事前にご相談ください。

検査当日

- ・ 当日は検査 2 時間前までは水分摂取可能です。
- ・ 当日朝の薬の服用に関しては、医師にご相談ください。
- ・ 抗凝固薬を飲んでいらっしゃる方は、鼻からの内視鏡はできません。
- ・ タバコは検査終了まで吸わないでください。
- ・ 口紅・マニキュアはご遠慮ください。

検査直前

- ・ 胃のなかをきれいにし、観察しやすくするための消泡剤を飲んでいただきます。
- ・ 鼻からの内視鏡であれば、鼻の通りをよくするスプレーをしたのち、局所麻酔薬を鼻に入れます。口からの内視鏡であれば、喉に局所麻酔薬を使います。局所麻酔薬はゼリータイプのもの、スプレータイプものがあります。
- ・ 鎮静剤を希望される方には、注射薬の鎮静剤を使います。当日のご本人の体調などにより、医師の判断で鎮静剤が使用できないこともあります。数分で眠気が出ますので、そののちに検査を行います。

検査中

- ・ 鼻あるいは口から内視鏡を挿入します。鼻をご希望された方のなかには、鼻の術後・鼻の傷・鼻の病気・鼻の奥が狭いなどの理由で内視鏡が入らないことがあります。その場合は医師の判断により口からの挿入方法に変えさせていただく場合がございます。
- ・ 検査時間は 5～10 分程度です。
- ・ 病気が疑わしい場合には、色素の散布や組織検査(生検)を行います。

検査後

- ・ 鎮静剤を使用された方は、30 分程度院内で休んでお帰りいただけます。
- ・ 鎮静剤を使用された方は、検査当日は車・バイク・自転車の運転はできません。万が一運転による事故が発生した場合、当院では責任を負いかねます。

【検査の合併症】

全ての医療行為にはリスクがあります。上部内視鏡検査においては、下記合併症が報告されています。万が一起きてしまった場合には適切な処置を行い、入院が必要と判断した場合には入院施設への転送を行います。

- ① 前処置薬によるもの: 使用する薬剤によるショック(血圧低下)、アレルギーなどがあります。発生頻度は 0.004% (2.5 万件に 1 件) 程度です。
- ② 内視鏡検査によるもの: 出血や穿孔(穴が開くこと)などがあります。発生頻度は 0.012% (8000 人に 1 件) です。また、鼻からの内視鏡を行う場合は、3-4% (25~30 人に 1 人) の頻度で鼻出血を起こすことがあります。
- ③ その他、マウスピースを噛むことにより歯が抜けてしまうことや、唾液の誤嚥により窒息・肺炎をおこすといった報告があります。